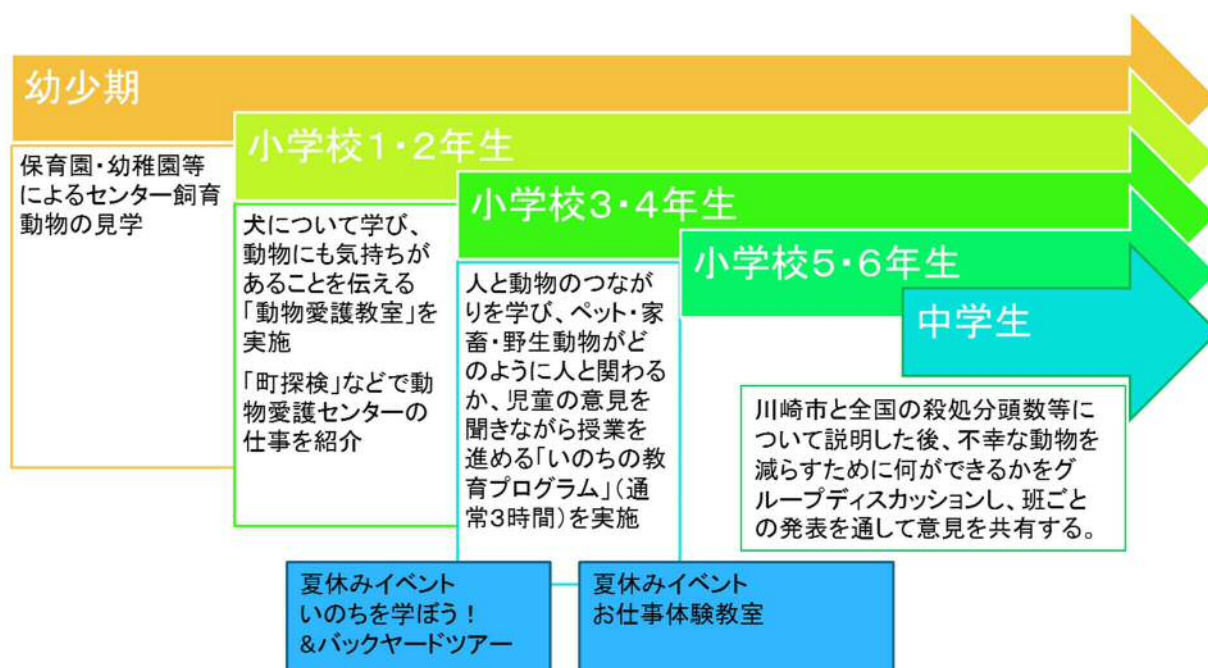


子供たちへの愛護教育等について

1 沿革

- 昭和49年度 春休み・夏休み「ワンワン教室」開催
平成元年度 夏休み動物ふれあい教室開催
平成2年度 夏休み動物ふれあい教室・移動ふれあい広場開催
平成4年度 小学校生活科授業で動物ふれあい教室実施
保育園児を対象に移動ふれあい広場実施
平成7年度 小学校・保育園等を対象に移動ふれあい教室実施
平成24年度 動物ふれあい教室のプログラムを見直し動物愛護教室へ
平成25年度 浅田小学校をモデル校としていのちの教育プログラムを実施
平成26年度 動物愛護教室を、動物の生体を用いないプログラムに変更
いのちの教育プログラムを本格実施
浅田小学校にて「いのちの授業」を（一社）Free Pets と共催
平成27年度 「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」「いのちの教育意見交換会」開始
平成28年度 「ミニたまゆり」参加

2 現在実施している教育活動



(1) 動物(犬)が幸せに暮らすために必要なものを考えよう!

ア 目的 自分と犬の関わりに興味を持ち、犬にも生命があることに気づき、生き物への親しみを持つ。

イ 対象 小学校第1学年 4月～7月

ウ 内容 小学校低学年になじみのある「犬」について、犬を飼うために必要なものを考え、絵に描く。

※スケジュール例(45分授業の場合)

10分	ご挨拶、動物愛護センターの紹介
3分	プリントの配布、作業についての説明
20分	お絵描き、犬を飼うために必要な物を実際に見ながら絵を描く
12分	描いた絵の発表、まとめ



実際に飼育時に使用する道具をみながら絵を描いていきます。



何を、なぜ描いたのかを発表します。お友達の発表を聞くことで、新しい気づきがあります。

(2) 瀬田さん物語

ア 目的 犬の表情を見て気持ちを考えることで想像力を育てる。また、言葉をしやべることができない犬の気持ちを考えることで、他者を思いやる心を育むきっかけとする。

イ 対象

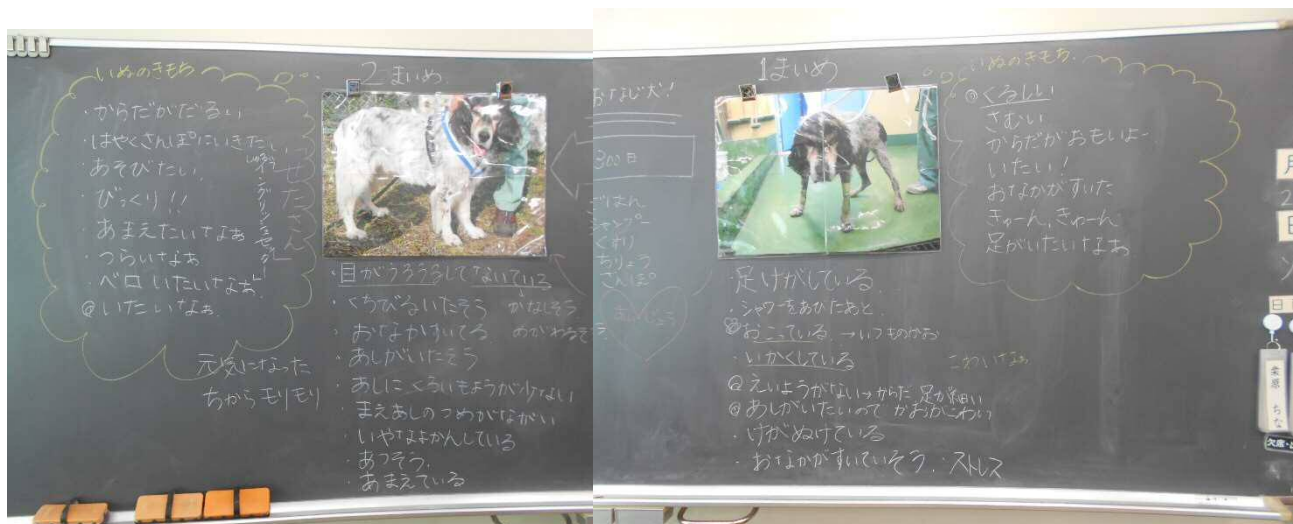
小学校第1学年 9月～3月、第2学年

ウ 内容

犬の写真2枚（動物愛護センター収容時、収容300日後）を見て、それぞれの表情や気づきを発表してもらった後、その犬に起こった物語を聞かせる。2枚の写真に写る犬は同一犬であるが、表情の違いは顕著であることから、その変化をもって犬にも気持ちがあることを考える。

※スケジュール例（45分授業の場合）

10分	ご挨拶、動物愛護センターの紹介
13分	1枚目の写真を見て、写っている犬の気持ちを考え、発表する
13分	2枚目の写真を見て、写っている犬の気持ちを考え、発表する
5分	2枚の写真に写る犬が同一犬であることを説明 犬に何が起こったのか、その後どうなったのかをお話し
4分	まとめ、感想の発表



(3) いのちの教育プログラム

奈良県「うだアニマルパーク」における「いのちの教育展開事業・いのちの教育」の教材を用い、平成26年度から、小学校3年生を対象にした動物を使用しない動物愛護教育を出前授業として取り入れました。小学校1年生を対象とした動物愛護教室同様、希望する小学校を訪問し実施しています。

ア 目的 子供たちの動物を大事に思う心、友達を気遣う優しい気持ちなどの豊かな人間性や社会性を育むため、「いのちの教育プログラム」を実施し、人間だけでなく全ての生き物のいのちの大切さについて考えることで、生命尊重、友愛と平和の情操に資することを目的としています。

イ 対象：小学校3・4年生（その他相談により対応）

ウ 内容

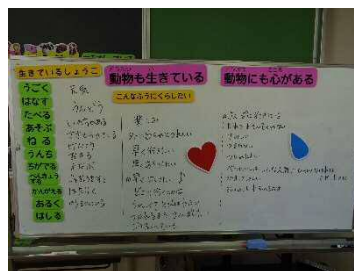
3部構成となっており、合わせて3時限で授業を行います。

① 私たちと動物との関わり（気づき）



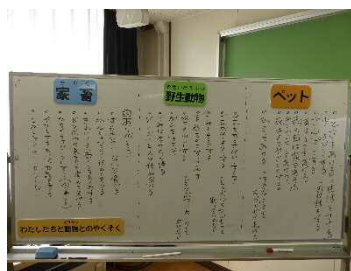
張り子の動物を使い、動物から私たちがもらっているものを考えます。

② 動物たちと私たちのいのちは同じ（共感）



動物のイラストパネルを用いて動物の気持ちについて考えます。

③ 動物のために私たちができること（責任）



動物のイラストパネルを用いて、私たちが動物のために何ができるかを考えます。

(4) 高学年向けプログラム

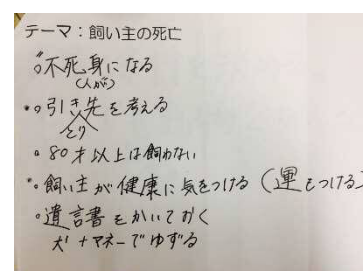
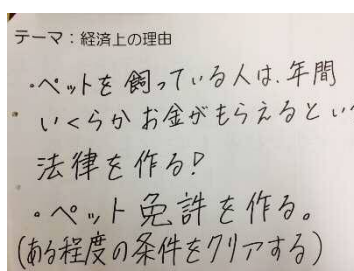
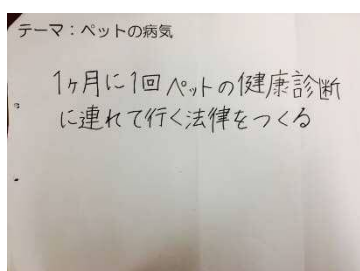
- ア 目的 全国的には動物の殺処分が行われている事実を知り、不幸な動物に対して出来ることを模索しながら生命を尊重する思いやりの心を育むきっかけとする。
- イ 対象 小学校第6学年、中学生等
- ウ 内容 川崎市動物愛護センターの仕事、川崎市と全国の殺処分頭数について説明をしながら、不幸な動物がいる現実を知る。また、不幸な動物を減らすために何が出来るかをグループディスカッションし、班ごとの発表を通して意見を共有する。

※スケジュール例 (50分授業の場合)

8分	ご挨拶、川崎市動物愛護センターの紹介、仕事内容について
12分	殺処分数の推移について (川崎市、全国)
5分	ディスカッションテーマについて説明 用紙の配布等
15分	グループディスカッション
10分	班の発表、まとめ



授業風景



平成28年度 金程中学校でのグループディスカッションでは、飼い主都合の動物引取りを減らすために何が出来るかを考えました。

- ◎ 平成28年度実績 ((1) ~ (4) 合計)
- 小学校8校23クラス 参加人数673名
- 中学校1校4クラス 参加人数144名
- わくわくプラザ1施設 参加人数78名

(5) 夏休みイベント お仕事やってみよう

ア 目的 センターの業務体験を通して、子ども達に動物を大切にする気持ちを感じてもらうとともに、動物の正しい飼い方や動物との接し方等について学びます。

イ 対象 小学校 4～6年生

ウ 内容 ①動物愛護センターのお仕事紹介 (VTR 使用)
② 犬の保護収容シミュレーション (獣医師体験) (ぬいぐるみを用い、性別判定・年齢判定・MC 読取り、飼主指導等)
③ 猫の餌づくり

エ 平成29年度実績

4日間 30名



(6) 夏休みイベント いのちを学ぼう！&バックヤードツアー

ア 目的 張り子などを用い、動物とのかかわりや動物の気持ちについて考え、動物に対する思いやりの心や、「いのちの大切さ」について学びます。また、動物愛護センター内を見学し、動物を適正に飼養するとはどういうことかを学ぶことを目的としています。

イ 対象 小学校 2～4年生

ウ 内容 ①いのちの教育プログラム I (動物を元の住処に戻そう)
② 動物愛護センター見学ツアー
③ 動物を飼ったときに何が出来るか考えよう

エ 平成29年度実績

19名



(7) 動物介在活動

- ア 内容 希望する小学校では、かわさき犬・猫愛護ボランティアによる犬の動物介在活動を実施しています。実際の動物（犬）を見て、さわり方を学び、犬の表情や温かさを実感することで、人間と動物の違いや共通点を学びます。
- イ 特徴 ボランティアとの協働事業として実施。ボランティアの飼養する犬を連れて、学校を訪問します。

